

第9回「高村・宮中塾」レジメ
— テーマ「科学的社会主義とは何か①」 —

日 時：2023年11月19日(日) 10:00～12:00
場 所：広島県労学協事務所+Web(816 6029 1088)



テーマⅠ 人間論

1) **ものごとを根本からつかむ**

○「理論が大衆をつかみうるようになる」(全集①P.422)ためには、「ものごとを根本からつかむこと」(同)

2) **マルクスは、「人間にとっての根本は、人間そのもの」(同)とする**

○人間そのものも、社会の発展に応じて、発展する。

○マルクスは、ヘーゲルの人間疎外からの回復を、「対象を現実においてはそのままにしておくにもかかわらず、それを現実的に克服したと信じる」(全集40, 同P505)と批判

○マルクスは、人間の本質を疎外から回復し、人間解放をめざしている。

テーマⅡ 人間の本質論

1) **人間を最高の存在にすると、人間の本質を回復すること**

○人間は、「自由な意識」、「共同社会性」、「自由と平等」いう3つの本質をもつ

○人間は3つの本質をもつことで、「最高の共同性によって最高の自由を求める」人間の尊厳を獲得する。

2) **人間は、原始共同体から階級社会に突入すると、支配階級によって人間の本質を奪われ、人間疎外の状況に陥っている**

テーマⅢ 人間の疎外論

1) **生産力の発展は、階級社会を生み出す**

○狩猟・採集から農耕・牧畜への移行は、生産力を発展させて剰余生産物をつくりだし、「生産物をつくり出す者」と「生産物を取得する者」の階級対立を生み出す。

2) **支配階級は階級対立をつうじて、被支配階級のつくりだした労働生産物を搾取することにより、被支配階級の3つの本質を奪い取る**

3) **支配階級は、階級支配の機関としての国家をつくり出す**

○国家は、軍隊、警察、裁判所などの「公的強力」(全集21, P169)を背景に、税制度や物価、社会保障などを利用して、被支配階級を抑圧し、支配する。

4) **支配階級は、搾取と国家権力に加え、マスコミを使って支配を強化する**

5) **被支配階級は、搾取と国家権力とマスコミにより、人間疎外を強いられる**

○支配階級は、社会全体をつうじて被支配階級の人間の本質を人間から疎遠化する。

○支配階級は「生産過程における搾取だけでなく、社会全体が労働者を疎外している」(服部文夫「新訳ドイツ・イデオロギー」P130)

6) **労働者をはじめとする人民は、階級闘争により、疎外からの自己回帰を求める**

○「疎外」とは、人間から人間の本質を疎遠にさせる自己否定であると同時に、人間の本質を回復する自己回帰を含んでいる。

○階級闘争により人間の本質回復をを求めるのは、「疎外」のもたらす必然的現象

参考資料①

マルクスは一八四五年までは人間の類本質を論じていたが、それ以降人間の本質論を放棄した、との議論があります。その根拠とされるのが、一八四五年の「フョイエルバッハにかんする第六テーゼ」であり、そこでは「人間的な本質は個々の個人内に内在する抽象物ではない。それは、その現実においては、社会的な諸関係の総和(アンサンブル)である」(「新訳：ドイツイデオロギー」P. 112)とされていることを主たる論拠とするものです。

その代表格であるアルチュセールは、このテーゼによりマルクスはそれまでの人間の類本質という没階級的人間観を「社会的諸関係の総和」という階級的人間観に転換し、「階級」と「プロレタリアート」の概念により、それまでの人間の類本質とか、人間疎外論を放棄してしまったと主張しました。

しかしよく読めば分かるように、この「第六テーゼ」は「人間的な本質」の存在を否定したのではなく、人間の本質は内に隠されたままの「内在する抽象物」にとどまることを否定し、それは外にあらわれて「現実においては、社会的な諸関係の総和」となっていると述べているにすぎません。つまりヘーゲルのいう「本質は現象しなければならぬ」(「小論理学」下P. 55)ことを述べたものというべきものでしょう。

しかも重要なことは、人間の類本質とその疎外論とは、人間解放論と一体不可分の関係にあるのであって、マルクスは人間解放にその生涯を捧げたのですから、類本質論、疎外論を放棄するなどありえないといわなければなりません。

(「21世紀の科学的社会主義を考える」P. 83-84)

たんに直接的な生産過程での搾取、資本と賃労働という関係だけで問題をとらえるのではなく、市民社会＝資本主義社会の体制全体による全労働者階級の抑圧を問題にするときには、搾取という言葉だけでは、とてもいいあられせない問題があります。生産過程における搾取だけでなく、社会全体が労働者を疎外している、というとらえ方は、搾取という概念だけでは表現しきれない、ということです。(中略)

市民社会＝資本主義社会の全体像をとらえる場合に「疎外」という言葉をマルクスが使っている点に着目すると、「物象化」論というのは、やや単純化しすぎているのではないかと思います。「物象化」論というのは、一口でいえば、商品経済が支配的な資本主義経済では人と人との関係が商品という物と物との関係としてあらわれることをさしています。この議論は、商品関係が資本主義社会の表面をびっしりとおおっているという状態をとらえる点では重要な視点ですが、中身の資本主義批判が単純化されてしまうおそれがあると思います。

『ドイツイデオロギー』を、そのような「物象化」論という角度だけからみるのは、全体の関連を無視して、当時のマルクスやエンゲルスの議論の発展の全体の姿から切り離してきているために生じてくることです。

(「新訳：ドイツイデオロギー」P. 130)

生産階級の解放は、性や人種の差別なしに、すべての人間の解放であること、生産者は生産手段を所有する場合にはじめて、自由でありうること
(「フランス労働党の綱領前文」全集⑨P. 234)

※一八七九年にマルセイユの社会主義者大会でフランス労働党が創立されたあとで、ジュール・ゲードを先頭とするフランスの社会主義者の一団は、ポール・ラファルグを介してマルクスとエンゲルスに労働党の綱領草案を起草する援助をしてくれるように依頼した。マルクスとエンゲルスは、フランスの労働運動のお役に立つことならなんでもしよう、と回答した。一八八〇年五月にゲードがロンドンに来て、ここで、マルクス、エンゲルスおよびラファルグの協力を得て、フランス労働党の綱領草案が起草された。綱領は理論的な部分と実践的な部分(すなわち最小限綱領)とからなりたっていた。理論的な前文は、マルクスがゲードに口述した。綱領のあとの部分について、エンゲルスは、一八八一年一〇月二五日付のベルンシュタインにあてた手紙のなかでこう書いている。「ついで、綱領のあとの部分の内容を討議した。われわれはいくつかの事項をもちこみ、別のいくつかの事項をとりのぞいた」(同上P. 597 注解(一五一))

われわれは、協同組合運動が、階級敵対に基礎をおく現在の社会を改造する諸力のひとつであることを認める。この運動の大きな功績は資本にたいする労働の隷属にもとづく、窮乏を生み出す現在の専制的制度を、自由で平等な生産者の連合社会(アソシエーション—宮中)という、福祉をもたらす共和的制度とおきかえることが可能だということ、実地に証明する点にある。

(「中央評議会代議員への指示～五・協同組合運動」全集⑩P. 194)

「社会のすべての成員に、物質的に完全にみちたりて、日ましに豊かになっていく生活だけでなく、さらに、彼らの肉体的および精神的素質が完全に自由に伸ばされ、発揮されることを保障する生活」(全集⑨P. 223)

要するに、生活の物質的向上と人間としての「全面的発達」、これが未来社会の人間解放の内容となるという見地であります。

マルクス、エンゲルスはこのように、人間の全面的発達を、人間の解放の事業のもっとも重要な内容として位置づけていました。

(「第23回党大会特集」前衛No. 776 P. 53)

工場制度から未来の教育の萌芽が芽ばえたのであり、この未来の教育は、社会的生産を増大させるための一方法としてだけでなく、全面的に発達した人間をつくるための唯一の方法として、一定の年齢以上のすべての児童にたいして、生産的労働を知育および体育と結びつけるであろう。

(「新版・資本論」③P. 844-845)

ボン基本法

第一条

- (一) 人間の尊厳は不可侵である。これを尊重し、かつ、保護することは、すべての国家権力の義務である。
- (二) ドイツ国民は、それゆえに、世界における各人間共同社会・平和および正義の基礎として、不可侵の、かつ、譲渡し得ない人権を認める。

国連憲章前文

われら連合国の人民は、われらの一生のうちに二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救い、**基本的人権と人間の尊厳**及び価値と男女及び大小各国の同権とに関する信念をあらためて確認し、正義と条約その他の国際法の源泉から生ずる義務の尊重とを維持することができる条件を確立し、一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上とを促進すること並びに、このために、寛容を実行し、且つ、善良な隣人として互に平和に生活し、国際の平和及び安全を維持するためにわれらの力を合わせ、共同の利益の場合を除く外は武力を用いないことを原則の受諾と方法の設定によって確保し、すべての人民の経済的及び社会的発達を促進するために国際機構を用いることを決意して、これらの目的を達成するために、われらの努力を結集することに決定した。

参考資料②

社会階級がないという状態は、のちの文化諸民族の、農耕をいとなむ自然的共同体でもなおつづく。こういう共同体のそれぞれには、最初からある種の共同の利益が存在しており、その保護は、たとえ全体の監督のもとでにせよ、個々人にいたくされなければならない。(中略)

このような職務は、あらゆる時代の原生的な共同体に、たとえばドイツの最古のマルク共同体に見いだされ、インドでは今日でもそれが見いだされる。いうまでもないことながら、それらの職務はある種の全権を付与されており、国家権力の端緒である。

(「反デューリング論」全集⑨P. 185)

疎外された労働は自己活動、自由な活動を手段に格下げすることによって、人間の類生活を彼の肉体的生存の手段たらしめる。(中略)

かくて疎外された労働は、人間の類的本質—自然をも彼の精神的な類的能力をも一彼にとっての余所ものたらしめ、彼の個人的生存の手段たらしめる。それは人間から彼自身の体をも、彼の外なる自然をも、彼の精神的本質、彼の人間の本質をも疎外する。

(中略)総じて、人間が彼の類的本質から疎外されるという命題は、ひとりの人間が彼ならぬ他の人間から、また彼らのおのおのも人間的なあり方から疎外されていることを意味する。

(「経済学・哲学草稿」全集 40P. 438)

疎外された労働の私的所有にたいする関係からさらに出てくるのは、私的所有等々や奴隷状態からの社会の解放は労働者の解放という政治的形態であられるという結論である。それはただ労働者の解放のことだけが問題ということではなくて、彼らの解放のうちに一般人間的な解放が含まれているからであるが、この一般人間的な解放がそのうちに含まれているのは、人間的奴隷状態は全部、生産にたいする労働者のあり方のうちに絡め込まれていて、あらゆる奴隷的あり方はこのあり方のもろもろの変形と帰結にほかならぬからである。(同上 P. 441-442)

後期マルクスは人間の社会的存在を重視し、社会の経済的構造の解明をつうじてこれを具体的に把握しようとした。そのさい「経済学・哲学草稿」における人間観が継承されたかどうかについては論争がある。マルクスはこの手稿の翌年の「フォイエルバッハについてのテーゼ」で、人間の本質を「類的本質」としてとらえることは抽象的であると批判し、「人間の本質はその現実性においては社会諸関係の総体である」とのべた。

(中略)マルクスの人間観を「科学区主義的に」解釈する論者たちは、ここにマルクスの人間観の転換があったと強調する。それによれば「経済学・哲学草稿」では歴史的條件が度外視されて、人間一般の本質が考察されているが、これはフォイエルバッハに影響された「未熟な」見解であって、後期マルクスは、このような哲学的・抽象的な見方を清算して、人間を科学的・具体的にとらえる立場に転換したというのである。初期マルクスの人間観にたいするこのような否定的な評価は、マルクス主義のなかで大きな影響をもってきた。(「現代哲学概論」青木書店 P. 108)

いま一つ、別の角度で現代日本の巨きよ大だいメディアの現状を見てみたいと思います。それは、現代の世界の他の国ぐにと比べてどうかという問題です。

まず新聞ですが、日刊紙で約 5100 万部という発行部数は、先進国を対象にした OECD（経済協力開発機構）の調査によると、絶対数で見ても世界一なのです。第 2 位のアメリカの 4900 万部、第 3 位のドイツの 2000 万部と比ひ較かくしても、たいへんな数だということを痛感します。

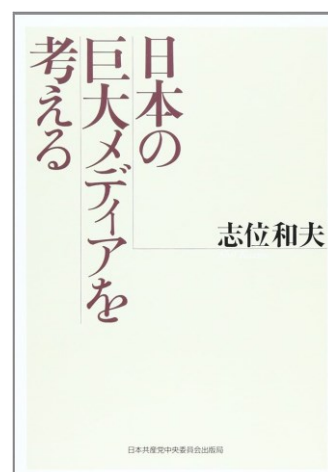
（中略）

もう一つ重要な問題は、テレビです。日本のテレビには、ある異常な特とく徴ちようがあります。それは、読売新聞は日本テレビ、産経新聞はフジテレビ、朝日新聞はテレビ朝日、毎日新聞はTBS、日経新聞はテレビ東京というように、大手新聞社とテレビ局が完全に系列化されているということです。かなりの資本を新聞社がもっていて、株主として支配力を発揮している。大手新聞とテレビは、こういう関係にあるのです。これを「異業種メディアの所有」（クロスオーナーシップ）といいます。放送メディアと新聞メディアという異なるメディアを、単一の営利企き業ぎようが独どく占せんするというやり方です。日本ではこれが大手新聞と全国ネットのテレビとの間で、全国的規模でおこなわれています。

実は、このような「クロスオーナーシップ」は、欧おう米べいの先進国では見られないものなのです。なぜかという、放送メディアと新聞メディアは、互たがいにチェックしあう必要があると考えられているからです。放送メディアが暴走したら、新聞メディアが抑おさえる。新聞メディアが暴走したら、放送メディアが抑える。お互いにチェックすることが必要だと考えられています。「クロスオーナーシップ」では、そうした言論の相そう互ご監かん視し、相互チェック機能、言論の多様性が失われる危険がある。

ところが日本では、「クロスオーナーシップ」が極端な形でおこなわれ、5つの大手全国新聞とその系列のテレビ局が同じ方向の内容の報道を、相互チェックもなく流し、国民の意識に圧あつ倒とう的てきな影えい響きようを与あたえている。

これが日本の巨大メディアの現状です。世界で一番新聞がたくさん発行され、全国的規模で大手新聞社が「クロスオーナーシップ」で系列のテレビ局に支配権をもつ。こういうがんじがらめの巨大メディアの構造ができあがっている国というのは、欧米の先進国には他に見られない異常なものなのです。



受講生の皆さんへ



広島県労働者学習協議会
常任理事 宮中翔

231217「高村・宮中塾」終了後の望年会について

連日のご奮闘に敬意を表します。

前回、お知らせしたとおり第10回「高村・宮中塾(最終回)」の開催日を「12/17(日)」に変更して開催し、学習会終了後に「Web 望年会」を開催します。

今年1年の愚痴を述べ、年内に「忘れよう」という後ろ向きの懇親会ではなく、科学的社会主義の見地に立って、来年を「どのように展望するのか」を語り合う懇親会です。

つきましては、お酒・おつまみ等の準備のため会場参加の皆さんには、受講料をふむめて「2,000円」を徴収させていただきますので、ご協力を宜しくお願い致します。

Web参加の方は、お手数をおかけしますがパソコンの前にお酒・おつまみを、たんまり用意してご参加ください。



討論 メモ用紙

テーマⅠ 人間論
人間の本質論

10:40～11:00

〈メモ〉

テーマⅡ 人間の疎外論

11:40～12:00

〈メモ〉

231022 第8回「高村・宮中塾」～感想文集

10/22 労学協事務所にて第8回「高村・宮中塾」を開催し、11名(Web含む)が参加しました。参加者からの感想を紹介します。

学習会に参加しての感想

- 参加者それぞれの人生があって、社会変革を一緒にめざして学んでいるのが、とても楽しい。趣味や仕事などで同じ目標に向かうこともとても充実した経験だし、人間関係も深まってとても良い。でも、いつも「ああ、これで終わりだ・・・」と思って虚無感におそわれてしまうが、社会変革の道にはどんどん先があり、ずっと生涯に渡って先に進めるので日本共産党に出会えて良かった。
- 「生きがい論」とも刺激的でした。戦前の非合法化での闘いと、現在の合法化での「日常の活動の中で英雄主義を貫く」闘いは、また違った困難さがあり、しっかり議論に納得を得ながら進めないといけないと思いました。
- 「生きがい論」、大変よかったです。
- 戦前の活動を知って、「私は命をかけることはできないので入党できない」と入党の呼びかけを断ったのです。今では戦前とは違う世界となっていて、人権、命に対する価値観も変わってきていると思います。活動のあり方について、いろいろと考えることがあります。
- とても面白く、そして共産党員として生きる道を選んだ私の選択は間違っていないと確信できた。科学的社会主義と共産党と真理と社会変革のつながり、実によく分かりました。今日の話をもっと多くの党の人たちに聞いて欲しい、知って欲しい。

疑問に思った点・深めたいと思った点

- 共産党を外から応援してくれる人は多いのに、自分がやってみようという人はなかなかいない。私が直観的に未来を担保にすると重く捉えたように、みんな重く考えているのかな……。それとも、そんな辛く苦しい事に時間を取られるより、感性・悟性的に上手く生きられれば幸せなんだろうか。
- たった一度の人生を多くの人が考えると思う、そこにとっても共感をもってくれる話しだった。

理解できた点・面白いと感じた所

- ヘーゲルの「最高の共同性は最高の自由」、特に私自身が今、特に考えている「共同性」についての重要性が伝わってきました。柳田謙十郎さんの「腐敗を知らない純真なすぐれた活動家であり、非妥協的なけがれをしらない精神にほれてしまった」という言葉に感動してしまいました。今の私自身の「悩み」の核心部分なので「私の人間変革」を学習してみたいと思いました。

自由記入

- 日常の英雄主義を貫くのはとても大変だ。ちくちくと攻撃に合うし。いわゆる昇進とか成功とかに結びつかないし。家事や子育てをしながらだと「子どもがかわいそう、家を片づけて・・・」と言われるし。でも誰のせいで子どもを放って出ていかなければいけないのか！そこを変えないと、子どもと一緒に幸せにはなれない！

10/22 第8回高村・宮中塾 参加者11名(Web含む)



最終回！

次回のお知らせ

日時：2023年12月17日(日) 10:00~12:00
場所：広島県労学協事務所+Web
テーマ：「科学的社会主義とは何か②」
内容：①人間解放論
②科学的社会主義とは何か

Cherry
Christmas

